

学校には、事務の先生がいる。だが、小規模校になると、いない場合もある。私が、以前勤務した小学校には、事務の先生がいなかった。では、どうするか。教頭先生が、その代わりに務めていた。近隣の学校の事務の先生に教えていただきながらである。大変である。

今まで、両手でも足りないほどの事務の先生方にお世話になってきた。教頭になってからは、事務の先生との距離感が変わった。一蓮托生というと大袈裟だが、それに近いものはある。

教頭1年目のときには、隣のベテランの事務の先生に鍛えていただいた。その分、かなり気を使わざるを得なかった。それは仕方がない。事務関係のすべてにおいて、私よりも詳しいのである。あの1年で、体重が減るはずだったのが、逆に増えてしまった。きっとストレス太りである。

2年目には、隣に若い事務の先生がやってきた。急に気が楽になった。この方は、仕事が確実である。常に改善しよう、もっとよくしようという姿勢がある方だった。共に新しいことを考えるのは楽しい時間だった。相談もしやすかった。

先日、会津の中学校に国語の授業を見にいった。学校に入り、駐車場はどこかと徐行していると、「こちらです」とスムーズに案内してくださる方がいた。まるで、私の顔と車を知っているかのようだった。車から降りてわかった。昔、私の隣にいた若い事務の先生だった。久しぶりにお会いした。相変わらず見事な仕事ぶりだった。懐かしく昔のことが思い出された。

高校に2年間いった。高校では事務長という存在の方がいる。他にも事務を担当する方がいる。いずれも県の職員である。二人とも、県庁にいた方だった。感覚が違う。高校という校種の違い、立場の違いなど、非常に勉強になった。少し、視野が広がった気がした。

4月1日の朝、野田中学校の玄関から校舎に入った。初めて言葉をかわした方が事務の先生である。名刺もいただいた。校長にとって事務の先生の存在は大きい。これから、大いにお世話になることがわかっている。私としては、丁寧に挨拶をした。

その後も、毎日毎日、お世話になっている。10月27日（水）には学校訪問があった。訪問者は22名だった。その準備を進めているうちに、わかったことがある。事務の先生と私の感覚が近いということである。ここまで準備をしなければというラインが一緒だった。その事務の先生は、「私が古いんですかね」と言っていた。そんなことはない。正しい感覚である。

4月からの8か月で、随分と助けていただいた。多くのことを教えていただいた。事務の先生は、職員会議や打合せなどの機会に話すことが多い。いつも、簡潔でわかりやすい。それは、4月1日の職員会議のときから思っていた。これからは、少しは恩返しができるようにしていきたい。事務の先生に言葉を贈るとしたら「全幅の信頼」だろうか。この言葉が一番しっくりくる。